

非常食の実態調査と宇土高校へのローリングストックの提案

熊本県立宇土高等学校

要旨

本校の非常時に備えた実態を把握し、今後の備え方に関して提案することを目的として研究を行った。まず宇土中高生に非常食の実態調査で、家に非常食を備えているのかや、非常食の知識・学校で災害が起こった場合などのアンケートを行う。そこから、本校に必要な非常食の数、また、非常時の対処法を調べ、確かめた。

結果、学校としての非常時の食に関する備えとしては、「ローリングストック法」が最適であると結論付けた。

1. 目的

非常食の実態調査については熊本地震を経験し食料や水が不足している現状を体感したため、非常食の実態を調査すれば学校内でどれくらい備蓄しておくべきか把握することを研究の目的とした。また、本校へのローリングストックの提案については、あまり知られていないこの方法がどんなものなのかを知ってもらい、学校内で無駄のない非常食の備蓄サイクルを定着させることを目的とする。

2. 方法

- (1) 宇土中高の非常食の数や保管場所を調べる
- (2) 本校との比較の対象とするため、宇土市役所の非常食の数を調べる
- (3) 本校の生徒に非常食や防災意識についてのアンケートを取る
- (4) 実際に自分たちで非常食を試食し、本校に備蓄する非常食の種類や数について検討する

3. 結果

(1) 宇土中高の非常食と保管場所に関する調査

- ①量：ご飯1000食
セーフボックス296セット(令和5年7月時点)
- ②内容：



尾西のチキンライス・450食分

ドライカレー・450食分



尾西の白米100食分



資料1 セーフボックスの中身

③保管場所：セミナーハウス

(2) 宇土市役所の非常食確保数

- ①量：18000食以上
- ②内容(一部)：非常用水、マジックライスシリーズ、尾西のご飯シリーズ(3種類)、サバイバルエコパッケージ etc...
- ③保管場所：市内9ヶ所の備蓄倉庫や市内の各避難所

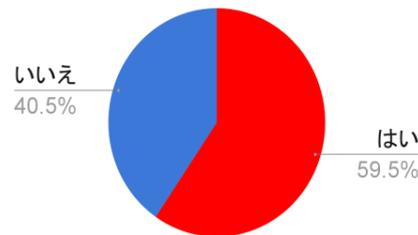
(3) 宇土中高でのアンケート

- ① 災害が起こったときに学校に留まるか
- ② 防災グッズを備えているか



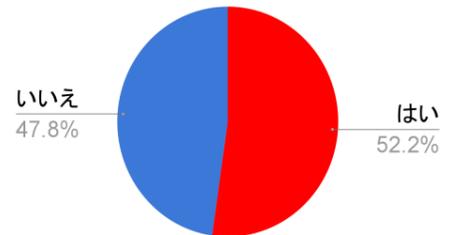
③

カップ麺を水だけで調理できるか知っているか



④

非常食は3日分必要ということを知っているか



4. 考察

今回の調査から、災害が起こったときに留まる宇土中高生は全体の約3割となった。そのため、宇土中高では1日3食の非常食は十分に確保されていない。

また、宇土市役所の非常食確保数は住民全員分を賄うことは出来ないが市内9ヶ所に保管してあるため、市役所の非常食をそれぞれの地区の住民に偏りなく分配できる。

防災グッズを備えている人は約4割、カップ麺を水だけで調理できることを知っている人は約6割、非常食を備蓄するときは3日分必要ということを知っている人は約5割。

調査によって、防災を心がけている人は全体の半数に留まっていることが明らかになった。

5. 感想・今後の展望

今回の学校の非常食やアンケート調査を通して、宇土中高の非常食や防災に関する意識が低いことに気づき、それと同時にこの現状を変えなければいけないと感じた。そのため、今後の展望としては自分たちで行った非常食の試食や、学校全体で取ったアンケート、その他の調査を参考にして、本校へローリングストック法を提案できるように研究を進めたいと考える。

6. 参考文献

- ・防災NIPPON https://ipoh.jp/top_info/?p=57/